

実践研究課題：学校における保健室の役割と課題解決型アプローチについて

研究代表者：和歌山大学教育学部 本山 貢

共同研究者：和歌山大学教育学部附属小学校 森本孝子（養護教諭）

岬町立深日小学校 松本勝治，長根わかば，岡田良平，河村愛美

キーワード： 養護教諭からの発信 公立学校との連携 生活習慣と体力づくり

1. はじめに

子どもたちを取り巻く社会環境が急速に変化している現代社会において、子どもたちの望ましい生活習慣の形成を支援することが、養護教諭の大きな責務の一つとなっている。

附属校の使命の一つに、公立学校を含む地域との連携が挙げられている。附属校養護教諭だからこそできる関わりとして、子どもたちの日々の生活拠点である地域との連携を深め、現代的健康課題の解決に向けた発信をしていく必要があると考える。

そこで、以前より健康教育と体力向上に関する連携事業を進めてきた岬町立深日小学校で、附属小学校養護教諭が実施した授業の取組について報告する。

2. 連携授業の取組の経緯

深日小学校が短期間で体力向上プロジェクトの成果を上げられた背景には、学校全体、また地域の理解と協力があったの事だと以前の連携事業報告会でも出されている。

附属小学校と深日小学校は、平成28年度より、生活点検の取組をはじめ健康教育に関して養護教諭を中心に情報交換を行ってきた。深日小学校養護教諭が、体育科の保健分野だけでなく、他教科との横断的な授業の取組、保健に関するきめ細かな指導や児童保健委員会活動等を通して熱心に健康教育に取り組みでこられている。今回、その延長で体力向上プロジェクトの一環として、附属小学校養護教諭がゲストティーチャーとなり、深日小学校5年生を対象に、自校5年生で実施した歯科保健に関する指導を基に授業を行うことになった。

歯と口の健康について取り上げた理由として、健康な歯と口が生涯の健康なライフスタイルに直結し、そのための望ましい生活習慣を子どもの頃から確立しておくことが必要であること。また、自己の健康管理の中でも、子ども自身が日々の生活行動において、健康状態を容易に視覚的に把握したり実感したりしやすく、そして未来像を見据えた時に、身近な大人（家族）を視野に入れて考えることができる。それにより、学校から子ども、子どもから家庭、そして地域へと更に広がりが期待できる健康教育につながると思ったからである。

3. 連携授業（歯科保健に関する指導）の取組報告

基本的な生活習慣の重要な要素である望ましい歯みがき習慣の確立を通して、子どもたちが健康の保持増進を図り、体力向上につなげることができるアプローチを試みた。

（1）附属小学校

全国小学生歯みがき大会（*注）参加型授業

- ・対象者：5年生96名
- ・実施時期：6月 歯と口の健康週間中に90分授業



(2) 深日小学校

附属小学校5年生を対象に実施した内容を一部取り入れた授業

- ・対象者：5年生 20名
- ・実施時期：7月初旬 45分授業（深日小学校 体力向上事業開催学校公開日）

①事前打合せ会

- ・実施時期：6月下旬
- ・参加者：両校養護教諭、深日小学校授業学級担任・体育主任・教頭
- ・内容：深日小学校健康教育と体力作りプロジェクトの概要説明、授業学級児童の実態把握（歯科健診結果、ブラッシングを含む生活習慣状況他）、授業教室の環境確認、授業案・事前事後アンケートの確認 等

②指導計画

歯科保健学習

H30. 7. 2

和歌山大学教育学部附属小学校

養護教諭 森本孝子

1. 日時 平成30年7月2日（月）4限 11:25～12:10
2. 対象 5年生20名
3. めあて 歯と口の健康を守ることが、未来の健康につながることを理解し、子どもの頃から望ましい歯みがき習慣を身につけておくことができるようになる。

○歯肉の観察力アップ

⇒ 思春期前期から増加傾向にある歯肉炎予防のために、歯肉の観察力を身につける。

○歯みがきスキルアップ

⇒ 歯みがきの基本を学習し、自分の歯や口に合ったみがき方をマスターする。

4. 流れ

- ①子どもでもなる歯肉炎（10～14歳では3人に1人）34.5%
- ②歯肉炎の原因 生活習慣との関わり（おやつ、だらだら食い、夜更かし等）
- ③歯肉炎のサインの予想
- ④自分の歯肉の観察（ワークシート①②） DVD
- ⑤歯みがきで歯肉炎を治す（＝健康な歯ぐきに）
正しい歯みがきで1週間（原因の歯垢を落とす） DVD
- ⑥歯みがき実習 歯垢がつきやすい部分（3か所の内、特に歯と歯ぐきの境目）
歯ブラシの当て方 小さく 軽い力 1ヶ所20回 DVD
- ⑦学級の実態、早寝早起きの目標多い
- ⑧まとめ・ふりかえり

5. 担任の先生にお願い *子どものサポートをお願いします。

事前に：アンケートの人数を確認してください。

事後に：アンケート・感想文をとってください。

6. 子どもの準備物 当日忘れ物が無いようにご指導ください。

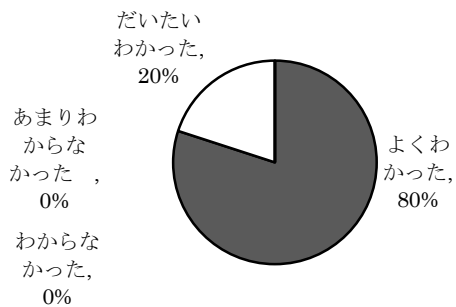
・ハンドタオルかハンカチ ・筆記用具（赤鉛筆必ず）

7. 他準備物 ・森本 DVD、手鏡、ワークシート、事後アンケート

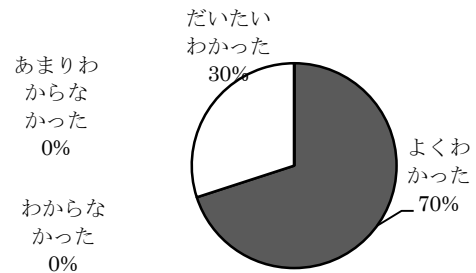
・歯ブラシ（本山先生） ・深日小 紙コップ

③授業後のアンケート結果と子どもの感想

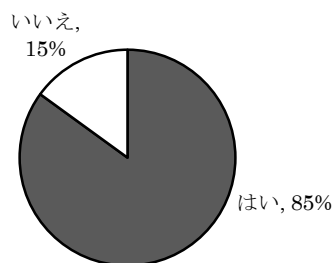
【1】歯ぐき（歯肉）の観察のポイントはわかりましたかきましたか？



【2】歯垢をじょうずに落とすためのみがき方はわかりましたか？



【3】学んだことを家族に伝えようと思いますか？



〔子どもの感想 一部抜粋〕

- 歯肉炎は生活習慣が問題でなると初めて知った。
- 小学生でも3人に1人が歯肉炎になっていると知って驚いた。
- クラスで歯肉炎が少なくて良かった。
- 歯肉炎チェック（色・形・硬さ・出血）の方法が分かったので、鏡を見ながら毎日したいと思う。
- 歯肉炎は歯みがきで治すことができることを知って驚いた。
- 歯みがきをがんばれば、歯肉炎にならずにすむことが分かった。
- これからは時間をかけて歯みがきをしたい。大人になっても歯周病になりたくない。
- 低学年の子にも、みがき方を教えてあげたい。
- 家族にも伝えようと思う。

3. まとめ

子どもたちが、生活習慣を確立することが健康づくりと体力づくりにつながることを知識理解し、生活の中で実践できることをめざした歯科保健に関する連携の授業に取り組んだ。ゲストティーチャーとして授業に臨む際に、子どもの実態を把握しておくことの必要性を改めて痛感した。事前打合せ会で得た情報は、子どもたちの実態や学級風土を知り、授業をデザインするうえで大変有効であった。例えば、児童保健委員会で歯科保健に関する啓発活動に携わり、既に知識理解が深い児童がいることや、低学年の頃から食後の歯みがき習慣が身についている子どもが多い等の実態をつかむことができた。また、教室掲示物の個々の生活目標に歯みがき習慣を含む健康に関する事項を挙げている子が多く、学級全体として健康意識の高さを読み取ることができた。これらの情報から指導のポイントを歯肉炎・歯周病予防に絞り、より科学的に知識理解ができるように、自校で実施した歯みがき大会の取組をもとに授業を工夫した。



事後の子どもたちの感想や養護教諭の話から、授業のめあての一つである『歯肉の観察力アップ』は、一応の成果があったと推察される。そして、学習したことを自己の健康管理だけでなく、家族や低学年の子に伝えようという他者の健康にも目を向け、高学年として社会の一員として意識が向いていることも窺えた。一方、『歯みがきスキルアップ』で、自分の歯や口に合ったみがき方をマスターするめあては、45分の授業では到達できず、事後指導として、給食後の歯みがきタイムに声かけをすることに留まった。

授業当日は、深日小学校体力向上事業の学校公開日であり、岬町の他の小学校から養護教諭と栄養教諭の参観もあり、地域の公立校との連携の一端とすることができた。

授業後に、深日小学校養護教諭が自校での歯科保健に関する指導に活用するために、附属小学校児童保健委員会活動（歯科保健に関する集会発表の準備）視察の連携も行った。

今後も、子どもの実態や学校保健に関する様々な課題解決に向けて、附属校と公立校の養護教諭が互いに必要な情報を発信して共有し、双方の学校において健康教育の実践を日々積み重ね、子どもたちのより良い未来の健康に向けて、連携していくことが必要であると考えます。

(*注) 全国小学生歯みがき大会 主催：日本学校歯科医会 東京都学校保健会 ライオン株式会社 ライオン歯科衛生研究所